
FAIRY TAIL ~ 妖精と悪魔の幻想曲 ~

夜桜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

FAIRY TAIL 妖精と悪魔の幻想曲

【Nコード】

N9943Y

【作者名】

夜桜

【あらすじ】

正規ギルド【妖精の尻尾・フェアリーテイル】と闇ギルド【悪魔の心臓・グリモアハート】に所属する。

オリジナル主人公【ランスロット・ハートフィリア】が魅せる妖精と悪魔の幻想曲の物語が始まるのだった。

オリジナルルート有り、主人公はラクスと互角、ヒロイン未定。
駄文ですがよろしく願いします（*^o^*）

プロローグ（前書き）

初めまして！

夜桜といえます！

FAIRY TAILを書くのは初めてなのでぐだぐだになるかも知れませんがよろしくお願いします（*＾o＾*）

ヒロイン未定なので誰がいいか言ってみてください♪

感想、指摘お待ちしております♪

プロローグ

ここは、永久中立国・フィオーレ王国。

この国、有数の資産家であるハートフィリア家で事件が起ころうとしていた。

『ほう……この赤ん坊の片割れが噂の…確かに強大な魔力を有している』

一人の男がハートフィリア家の屋敷に入り込んでいた。

この男は、双子の赤ん坊の片割れを見ながら笑い出した。

『くくく……こいつを魔法開発局に実験台として売ればかなりの大金が私の手に……悪いがお前は、私の利益のために実験台になってもらう』

男は、赤ん坊の片割れに手をかざし

『さあ……行くでしょう…そして私の野望の糧となれ…闇ギルド…
【六魔將軍・オラシオンセイス】のブレインのために…』

自らをブレインと名乗る男は双子の片割れと共に姿を消したのだ

った。

―そして、部屋では…

―残された双子の片割れが

―ただ…一人泣くのだった

主人公設定（前書き）

主人公設定と少しのネタバレですf^| ^ ;

主人公が扱う暗黒十二門の星霊のアイディア募集中です！

他にも風の魔法、風竜の滅竜魔法の技も募集中ですので皆さんよろしくお願いします♪

主人公設定

人物紹介

名前

【ランスロット・ハートフィリア】

性別

【男】

容姿

【髪】

金髪のストレートヘアに目の色は赤という中性的な美貌を持つ美少年。

背中ほどの髪を赤いリボンで髪を束ね、毛先には青白いメッシュが入っている。

【服】

白いワイシャツと赤いスーツを崩して着ていて上着は肩に掛けている。

【顔、身長、体重】

双子のルーシィと全く同じであるが目の色だけが違う。

一人称

【俺様】

所属

【悪魔の心臓？妖精の尻尾？？？】

魔法

【風系魔法全般】

【風竜の滅竜魔法】

【星霊魔法】

魔法紹介

風系魔法全般

【サイクロン】

竜巻を無数起こし広範囲の敵を吹き飛ばす魔法。

【エアレイザー】

掌に集めた風を前方の一直線に打ち出す魔法。

【スラッシュトルネード】

風を鎌鼬に発生させて、さらに巨大な竜巻に変えて敵を切り刻む魔法。

風の滅竜魔法

【風竜の咆哮】

口から風のブレスを放つ魔法。

【風竜の剣脚】

足に風を纏い蹴り飛ばす魔法。

【風竜偃月刀】

風で偃月刀を作り出して相手に向かって投げる魔法。

星霊魔法

【子犬座・ニコラ】

姿形はルーシイのブルーと全く同じだが、サングラスにライフル銃を持ってマフィアのような風貌だが、能力は弱小でライフル銃からはあめ玉が飛んでくる。

【天馬宮・ペガサス】

白い羽が生えた白馬で、ランスロットが移動するときによく使う星霊であり、戦闘では【星竜宮のシリユウ】とタッグを組むことが多い、人の言葉を話すこともできる。

【鬼神宮・オーガ】

頭にちいさな角が二本あり、緋色の和服に大きめのリボンを着用している。体つきは小柄で、それに反比例するかのような長い髪が特徴。右目は基本的につむっており、更に前髪で隠しており薙刀を持っている、ランスロットのお願いでこの姿にしている。

【星竜宮・シリユウ】

青い竜のデザインの鎧と竜をモチーフにした槍と剣を身に着けていて、髪型水色の長髪ポニーテールでランスロットの護衛の一人で良く、ペガサスと手を組んで戦っている。

【幼少時】年齢0～7歳

ルーシイの双子の兄として産まれるが、赤ん坊の時から魔力が圧倒的に高かった、この事を知った魔法技術開発局は、うまれたばかりの彼を誘拐して実験台として使う。

数年後ウルティアと同じ施設に送られて、そこでウルティアと知り合い、ウルティアに伝説の騎士と同じ名ランスロットと名付けてもらう。

実験施設では、魔法技術開発局が黄道十二門の対になるように独自に作り出した人工星霊・暗黒十二門の実験台にされて高度の星霊魔法を修得した。

その後、ウルティアと共に魔法技術開発局の実験施設に反乱を起こして、自由となり放浪していると【悪魔の心臓・グリモアハート】のマスターハデスと出会い、ウルティアと共に悪魔の心臓に入るのだった。

【少年期】年齢8～14歳

マスターハデスの悪魔の心臓で自分と同じように集められた者達と失われた魔法・ロストマジック、風神の滅神魔法を修得するため修業をするが、なぜかランスロットだけ修得出来ず、困ったハデスは風竜のラクリマをランスロットの身体に埋め込んだ、これにより風竜の滅竜魔法を使えるようになった。

修業が終わってからだった、マスターハデス直々の命令がランスロ

ットやウルティアや他の仲間の下されたのは、ランスロットの任務は【妖精の尻尾・フェアリーテイル】への潜入任務だった。

任務のため一時的に悪魔の心臓から離脱し悪魔の心臓に関する記憶を消されて、妖精の尻尾の魔導師として生活するのだった。

妖精の尻尾に入ってから、マスターマカロフの孫、ラクサスと仲良くなり一緒に依頼などをする。そして、S級魔導師になったあと評議員から依頼があり悪魔の心臓の調査をするため旅立った。

旅立った先で、再びマスターハデスと出会い、記憶を取り戻す。

【青年期】年齢17

旅立ってから三年後、妖精の尻尾に戻ってくると、幽鬼の支配者との戦争が勃発していた。

戦争終了後、自分と同じ姿形のルーシィと出会い不思議に思いながらも普通の生活をしながら影で悪魔の心臓と密会などをする。

楽園の塔、バトル・オブ・フェアリーテイル、六魔將軍と事件に関わって行くが、エドラスに突入する前に妖精の尻尾から姿を消す。

その後、S級昇格試験が行われる天狼島で悪魔の心臓の魔導師として、妖精の尻尾の前に現れるのだった。

第一話【少女との出会い】（前書き）

皆さん、アンケートありがとうございましたm（――）m

幼少期を少しやって、少年期まで飛ばしたいと思います！

今回と次回は幼少期でウルティアとの出会いをやりたいと思います♪

感想、指摘お待ちしております！

第一話【少女との出会い】

――ここは魔法開発局のとある施設。

魔法を研究し開発する場所であつた、そんな場所で僕は…

――飼われていた。

名前のない実験台である僕……唯一わかっているのは、5歳という年だけで自分が何者なのかわからない僕の1日は長くつらい1日だった。

実験台である、僕は子供が2人入れるくらいの鳥籠に入れられていた…

…そんな僕が鳥籠から出されると…とても痛く、つらい実験が行われる。

…そして、実験が終わればゴミくずのように鳥籠に入れられる。

――これが、僕の1日だった……昨日までは……

鳥籠に入れられて気づいた僕しか居なかったはずの鳥籠に1人の黒髪の女の子が居たのだった。

女の子は、僕を見ると……

『ごめんね。…前、一緒に居た子が居なくなっちゃったから』

居なくなっただけ……つまり、死んだということは、幼い僕でもわかった。

でも……僕は、どう答えればいいのかわからず……

――ただ、ただ……初めて一緒に居た女の子を見つめるだけだった

『……………』

『……わたしの名前は、ウルティア！ ……あなたのお名前は……？』

女の子は、自分はウルティアだと名乗った……

……だけど、僕は……何も言えず黙っていることしかできなかった……。

――これが、黒髪の女の子……ウルティアとの出会いだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9943y/>

FAIRY TAIL ~ 妖精と悪魔の幻想曲 ~

2011年12月1日23時48分発行